

令和2年12月

魚津市定例記者会見



日時：令和2年11月30日(月) 午後1時30分～午後2時15分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、NICE-TV、ラジオミュウ

市当局出席者：市長、企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 魚津市12月補正予算案について

- ・ポイントは3つ。1つ目は、コロナ対策としては第6弾となる、経済対策と感染症対策の両方を盛り込んだ内容であること。2つ目はイベント等の中止、指定管理者への支援などのコロナ禍の影響への対応をしたこと。3つ目は、人件費を含むその他の補正を行うこと。全体の補正額は3億5千4百万円となる。主な補正財源は国庫支出金と繰越金となっている。地方創生臨時交付金で足りない分を繰越金から1億5千万円支出する。イベントの中止等に伴う事業費の減額の合計額は約3200万円。主な中止イベントとしては、じゃんとこい魚津まつり、まるまる魚津、聖火リレー等の東京オリンピック・パラリンピック関連、しんきろうマラソンなどがある。これまでの新型コロナウイルス感染症対策の補正予算額を合計すると約55億円となる。

<プレミアム付飲食券発行事業>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている市内飲食店での消費を喚起するため、プレミアム付飲食券を発行する。発行額は7千万円。プレミアム率は40%。販売・換金事務等を魚津商工会議所に委託する予定。スケジュールは1月に販売開始し、3月中旬までを使用期間とする予定。新型コロナウイルスの感染状況によっては見直す場合もある。6月補正で「応援券付じゃんとこい商品券」を発行しているが、スーパーやドラッグストア等の生活必需品への利用が多かったため、今回は対象業種を絞って実施することとした。

<新しい生活様式を踏まえた経済活動支援事業>

- ・市内事業者の「新しい生活様式」の定着に向けた取組み（換気設備設置などの感染防止対策）に対して、制度内容を一部拡充し、引き続き支援を行う。

<魚津の宿泊割引事業（魚旅キャンペーン）>

- ・9月からスタートした魚旅キャンペーンについて、観光関連産業の需要回復をさらに後押しするため、実施期間を12月末までから3月末まで3か月延長する。対象施設や割引額などは変更ない。

<高齢者等へのPCR検査助成事業>

- ・新型コロナウイルス感染症により重症化するリスクが高いとされる65歳以上の高齢者等のうち、PCR検査を希望する方に対して、感染拡大や重症化の防止、不安の解消を目的に、検査費用の一部を助成する。自己負担額は5千円程度を想定している。希望者は事前に健康センターへ申し込みが必要。なお、市外・県外の医療機関で検査を受ける場合は、一旦全額を支払い、後から償還払いとなる。

<臨時休校等対応用モバイルWi-Fiルータ整備事業>

- ・児童・生徒が、臨時休校等の際にタブレット端末を家庭で使用するにあたり、Wi-Fi（ワイファイ）環境が整備されていない家庭に対して、モバイルWi-Fiルータを貸し出すことができるよう整備する。

<外国人技能実習生等受入支援事業>

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国人技能実習生等が入国の際に「2週間の隔離待機規制」が適用され、その費用が受け入れ事業者の負担となっている。隔離待機期間中の宿泊費を助成し、受入事業者の負担を軽減する。

<ふるさと寄附推進事業>

- ・返礼品の品数を増やしたことや、ふるさと納税を受け付けるWEBサイトへの登録数を増やしたことに伴い、当初の見込みよりも寄附金額が増加しているため、返礼品の調達等にかかる経費及び積立金を増額する。

※10月末寄附金額累計 前年度比約3.5倍

<有料化を見据えた旧小学校等体育施設改修事業>

- ・令和3年度から旧小学校等体育施設が有料化される。スポーツ少年団や部活動をはじめ、市民スポーツ活動を不便なく安心して実施できるよう、旧小学校等体育施設の床面や照明などを改修する。

< R P A開発・導入事業 >

- ・業務の効率化を図るため、これまで職員が行っていたパソコンへの入力作業を自動的に実行するソフトウェアロボットを開発・導入する。昨年度から3つの業務について導入しているが、これに加え新たに4つの業務についてRPAを開発し導入する。現在稼働中の3業務と追加の4業務を合計した年間の削減時間は2,017時間、年間の削減効果額は877万6千円と見込んでいる。

< 農業者オンライン申請環境整備支援事業（農林水産省共通申請サービス導入） >

- ・経営所得安定対策交付金等の申請手続きを、農業者がオンライン（農林水産省共通申請サービス）で行えるよう支援する。県内では初めての取り組みとなる。年度内にデータの作成や移行を行い、4月から運用を開始する予定。

(2) 魚津市ふるさと寄附1億円突破（令和2年11月時点の実績と取組）

- ・令和2年度の魚津市ふるさと寄附は、11月23日現在で件数が4,178件、金額が1億185万2千円となり、1億円を突破した。件数・金額ともに対前年比約3倍のペース。増加の要因としては受付WEBサイトや返礼品の数を増やしたこと。ほかには、市と事業者が協力して商品選定やキャッチコピー作成などを行ってきた効果もある。返礼品のベスト5は、1位が魚津の麦茶、2位・3位がシャインマスカット、4位がわっぱ弁当箱、5位がほたるいかの素干し。麦茶、弁当箱、ほたるいかは前年に引き続き多く、定着してきたと思われる。シャインマスカットは今シーズンからラインナップしたもので、申込が急激に増加している。今後も寄附額をさらに増やして3億円オーバーを目指したい。

(3) 東山田筒分水槽ポケットパーク竣工式の開催について

- ・国登録有形文化財に登録された「東山田筒分水槽」隣接地にポケットパークを整備した。12月6日午前10時から簡単なセレモニーを予定している。地元の関係者と完成を祝い、今後の活動につなげていきたい。

(4) 第1回「うおづめし教室」を開催します

- ・想定している対象者は、魚津に引っ越して来られた方。魚津ではいつも新鮮な魚が販売されているが、いつか自分でも捌いてみたいといった声も多い。フクラギのシーズンにあわせて、フクラギの捌き方を勉強し、魚津独自の雑煮と一緒に作り、楽しいひと時を過ごしたい。

(5) りんごの収穫体験会を開催します

- ・市内小学生の親子10組を対象にした『うおづのくだもの親子体験会』の第3回目を、12月12日（土）に開催する。第3回目は、りんご園地にて旬を迎えた「ふじ」を収穫する。収穫後は、重さの計測、選別、集計などを行い、糖度の測定作業も行なう。魚津商工会議所女性会主催の「りんごの木オーナー制度」と同じ園を利用させてもらう。

魚津の「りんご」× 富山調理製菓専門学校

- ・学校法人青池学園 富山調理製菓専門学校とのコラボレーション企画を今年も行う。12月16日から18日にかけて、学校併設レストランで魚津産りんご「ふじ」を用いたクリスマスランチデザートを提供する。同じく12月18日には、学生による市内りんご園での収穫体験と埋没林博物館併設カフェ「KNINAL」での学習を行う。来年の2月ごろには、収穫したりんごを用いてアップルパイ製作&販売を行う予定。

2. 質疑応答の内容

「令和3年度予算への新型コロナウイルス感染症の影響」について

《記者からの質問》

来年度（令和3年度）の予算を組む際に新型コロナウイルス感染症の影響がどれほどあるか、現時点で把握できているか。

《回答》（市長）

はっきりしたことはわからないが、市税の減収はおそらく1.5～2.0億円になると思われる。施設収入についても今年度のように休業になって減少することも考慮して備えていくことになる。市の財政調整基金を早急に10億円にする目標があるが、必要な事業があれば基金に手をつけてでも実行するつもり。

「新型コロナウイルス感染症の飲食店への影響」について

《記者からの質問》

新型コロナウイルス感染症の市内の飲食店への影響はどれほどか。閉店した店舗のデータはあるか。

《回答》（市長）

具体的な数字はわからないが、今年度の前半は売り上げが半分以下になる期間があったと思う。秋になってから回復傾向になったが、この年末に向けて再び厳しくなっている。年が明けてから今年度末まで、影響をしっかりと見ていく必要があると思う。店舗の閉店については具体的なデータはないが、閉店したところもあるとは聞いている。

「成人式」について

《記者からの質問》

成人式のために県外から帰省すべきか迷っている新成人もいると思うが、いつまでに成人式の実施・中止を決定するのか。

《回答》（市長）

成人式は今のところ安全対策をしっかりと行ったうえで開催する予定。県外から帰ってくる方に一律にPCR検査をしてもらうなどの考えはないが、状況の変化により必要になればその時に考えたい。

「年末年始の市役所窓口」について

《記者からの質問》

今年の執務納めの式が12月23日に行われるが、市役所の窓口はいつまで開いているのか。

《回答》（企画政策課長）

市役所の窓口は例年通り28日まで開いている。